

**総合人間学部・人間・環境学研究科**

- I 研究水準 ..... 研究 10-2
- II 質の向上度 ..... 研究 10-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

#### 期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員（助教以上 137 名）一名当たりの平均著書数が 1.82 件、論文数が 4.35 件である。また、基調講演・招待講演の回数も国内 76 件、国際 88 件となっており、活発な研究活動が続けられている。研究資金の獲得状況については、科学研究費が平成 19 年度申請件数 123 件中 62 件の採択（50%）、うち、新規分は申請件数 88 件中 27 件の採択（31%）であり、この割合は平成 16 年度からほぼ継続した状態である。また、寄付金・受託研究・共同研究の受入れ状況については、平成 19 年度（11 月末現在）では、27 件であることなどは、優れた成果である。

以上の点について、総合人間学部・人間・環境学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、総合人間学部・人間・環境学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

### 2. 研究成果の状況

#### 期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、研究科の専門領域が広いこともあって、神経科学、哲学、文学、心理学、物理学、プラズマ科学、複合化学、建築学等の人文社会科学系と自然科学系の広い分野において、学際性が発揮された多くの研究成果が生まれている。特に、19 世紀フランスにおける科学的活動としての心霊研究に関する研究、六朝時代の文学観と謝啓という文体の関連を論じた研究、民俗学や建築学等の複数の学問領域にまたがる琉球祭祀文化の空間特性に関する研究は卓越した業績として高い成果を上げている。社会、経済、文化面では、多くの教員が一般書等の形態で研究成果を広く社会に向けて発信し、社会的に影響力の強い成果を上げている。中でも、中世ヨーロッパの民間伝承や民間信仰を浮き彫りにしたグリム童話の研究、国立スコットランド博物館で開催されたイザベラ・バードの旅の足跡をたどった写真展は卓越した成果を収めている。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、総合人間学部・人間・環境学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合

的に勘案した結果、研究成果の状況は、総合人間学部・人間・環境学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。